



りんご生産情報第13号
(10月24日～11月1日)

令和6年10月23日発表
青森県「農林水産力」強化本部

樹上選果マン

ふじの収穫は有袋果が10月27日頃、無袋果が11月1日頃から！
モモシンクイガなどの被害果が混入しないよう選別の徹底を!!
風害・鳥害対策は万全に!!!

I 概要

10月21日現在の果実肥大は、平年並から平年を上回っている。

ふじの熟度は、3日程度進んでいることから、収穫始めは黒石で有袋果が10月27日頃、無袋果が11月1日頃からと見込まれる。ふじの熟度の進みからみて、王林の収穫も平年より早い10月26日頃からと見込まれる。

山選果ではモモシンクイガなどの病虫害被害果が健全果に混入しないよう徹底して選別する。

果実疫病の感染を防ぐため、果実に泥が付着しないように注意する。反射資材を片付ける際に土を飛散させたり、収穫した果実を長く野積みしない。

強風に備え、防風網の点検、補強などの風害対策をしっかりと行う。

ムクドリ（サクラドリ）、ヒヨドリ、カラスなどの被害が大きいところでは、防鳥網を使用する。

報道機関用提供資料	
担当課	りんご果樹課
担当者	生産振興グループ GM 小笠原 宜弘
電話番号	直通 017-734-9492 内線 5146
報道監	農林水産部 次長 栗林 豊 内線 4967

II りんご生産情報

1 果実肥大、果実熟度、作業の進み

(1) 果実肥大

ふじの果実肥大は平年並から平年を上回っている。

○果実肥大 (10月21日現在、横径cm、平年比%)

地 域	年	ふ じ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	8.8
	平 年	8.8
	前 年	8.7
	平年比	100
青森市浪岡北中野 (東青地域県民局)	本 年	9.1
	平 年	8.5
	前 年	8.6
	平年比	107
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	9.2
	平 年	8.8
	前 年	9.1
	平年比	105
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本 年	9.5
	平 年	8.8
	前 年	9.8
	平年比	108
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	9.4
	平 年	8.6
	前 年	9.2
	平年比	109

注 各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

(2) 果実熟度

10月19日現在、無袋ふじは平年値と比較して、糖度は高く、ヨード反応、硬度、酸度、着色指数、蜜果率及び蜜入り程度は低い。総合的に見て、熟度は平年よりやや進んでいる。

有袋ふじは平年値と比較して、糖度は高く、硬度、酸度、ヨード反応及び着色指数は低い。総合的に見て、熟度は平年よりやや進んでいる。

○ふじ（無袋）の熟度の進み

(調査月日：10月19日)

地域	年	果重 (g)	着色 指数	硬度 (ポント)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	ヨード 反応 指数	蜜果率 (%)	蜜 入り 程度
黒石 (りんご 研究所)	本年	323	2.1	14.4	14.0	0.307	2.8	33	0.3
	平年	328	2.8	15.7	13.5	0.399	2.8	71	0.8
	前年	345	2.3	15.1	14.3	0.377	2.4	73	0.8

注1 平年：2001年～2020年の20か年平均

2 着色指数：0～5（大きい数値ほど着色良好）

3 ヨード反応：ヨードでんぷん反応指数0～5
(小さい数値ほどでんぷんが少ない)

4 蜜入り程度：0～4（大きい数値ほど蜜入りが多い）

○ふじ（有袋）の熟度の進み

(調査月日：10月19日)

地域	年	果重 (g)	着色 指数	硬度 (ポント)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	ヨード 反応 指数	蜜果率 (%)	蜜 入り 程度
黒石 (りんご 研究所)	本年	315	2.7	14.4	13.3	0.285	2.6	17	0.1
	平年	320	3.3	16.1	12.9	0.391	2.8	40	0.4
	前年	341	2.9	15.7	13.6	0.312	2.5	33	0.3

注1 平年：2003年～2020年の18か年平均

2 除袋日：9月20日外袋、24日内袋

(3) 作業等の進み（10月21日現在）

シナノゴールドなどの収穫が行われている。

ふじの葉摘み、玉回しなど着色手入れが行われている。

2 作業の重点

(1) 晩生種の収穫

ア 王林、ふじ

ふじの熟度は3日程度進んでいることから、収穫始めは黒石で有袋果が10月27日頃、無袋果が11月1日頃からと見込まれる。

収穫時期が早すぎると貯蔵後にビターピットややけ病の発生が心配され、収穫時期が遅すぎるとつる割れの発生が増加するほか、貯蔵中に内部褐変の発生が懸念されるので適期に収穫する。

ふじの熟度の進みからみて、王林の収穫も平年より早い10月26日頃からと見込まれる。

王林、ふじの収穫時の標準指標

品種	地色	硬度 (ポンド)	糖度	ヨード 反応	蜜入り程度	食味
王林	4～5	14～16	13%以上	2～3	—	3.5以上
ふじ有袋	—	14～16	13%以上	2程度	1程度	3以上
無袋	—	13～16	13.5%以上	2以下	2以上	4以上

注1 地色：果実カラーチャート・リンゴ・王林の指数1（濃緑色）～7（黄色）
 2 食味：指数1（未熟）～5（非常に良好）

イ 星の金貨、シナノゴールド、ぐんま名月

収穫時期の判断が難しいので、「収穫時の標準指標」を目安に「りんご黄色品種青森県標準カラーチャート」を利用して適期に収穫する。

ぐんま名月は、果肉の軟化が早く、蜜褐変の発生が多いので年内販売とする。

星の金貨、シナノゴールド、ぐんま名月の収穫時の標準指標

品種	硬度	糖度	ヨード反応	食味
星の金貨	14～16ポンド	14%以上	2.5以下	4以上
シナノゴールド	14～16ポンド	14%以上	1.5以下	3.5以上
ぐんま名月	12～16ポンド	14%以上	2以下	3.5以上

(2) 山選果の徹底

山選果は、十分な明るさの下で、果実全体を確認して行う。

日焼け果、さび果などは、出荷先の基準により選別・出荷する。

また、本年はナシマルカイガラムシの被害が見られるので、注意して選別する。

シンクイムシ類の被害果を流通させないために、収穫した果実は徹底して選別する。特にモモシンクイガによる、がくあ部付近の食入痕や滴痕を見逃さないように注意する。

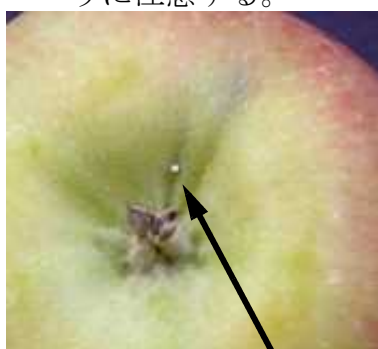


図1 白く乾燥した滴痕
(食入痕に生じた滴が乾燥したもの)

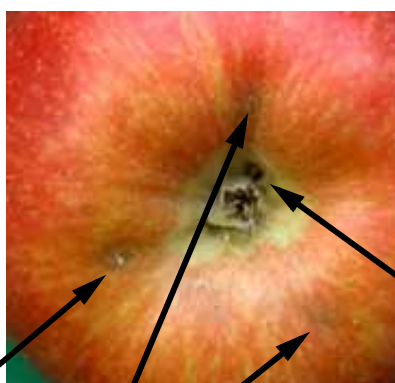


図2 幼虫の食入痕



図3 老熟幼虫の脱出口

提供：(地独) 青森県産業技術センターりんご研究所(図1～3：モモシンクイガ)

(3) 収穫した果実の管理

収穫した果実は、すみやかに冷蔵施設への搬入や出荷を行う。

(4) 果実疫病対策（おそ疫病）

反射資材を片付ける際は、土を飛散させないようにし、りんご樹にかけて干さない。収穫用のかごや箱の土はあらかじめ洗い落としておく。

降雨時の収穫は行わない。やむを得ず収穫する場合は、果実に泥が付着しないように注意する。地面に落ちた果実は収穫した果実に混入しない。収穫した果実は長く野積みをしていない。

(5) 炭疽病、輪紋病対策

被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(6) 褐斑病対策

被害葉は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(7) 腐らん病対策

本年も発生が目立っている。

収穫時につる折れ、つる抜けとして残ったつるから病原菌が侵入するので、つるが果台に残らないように丁寧に収穫する。つるが残った場合は必ず果台から取り除く。

枝腐らんは、見つけ次第切り取り、適切に処分する。胴腐らんは、再発病斑を含め、見つけ次第、次のいずれかの処置を行う。

なお、処置方法については、青森県産業技術センターのYoutube公式チャンネルに掲載している。（<https://www.youtube.com/@aitcofficial/videos>）



QRコード1：
トップジンM
オイルペースト



QRコード2：
バッチレート



QRコード3：
泥巻き法

(8) 黒星病対策

自園地の状況を確認し、被害葉、被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(9) シンクイムシ類対策

被害果をそのまま放置すると次世代の発生源となるので、被害果は見つけ次第摘み取り、7日以上水に漬けるか、穴を掘り10cm以上の土をかぶせて埋める。

(10) リンゴコカクモンハマキ対策

発生が多い場合は、果実に接触している葉を摘み取り、果実被害の軽減に努める。

(11) マメコバチの巣箱の回収

マメコバチの巣箱を回収していない園地では、すみやかに巣箱を回収し、直射日光が当たる所や高温になる所を避け、風通しのよい日陰に保管する。

(12) 風害対策

強風に備え、防風網やわい性台樹の結束状況などを再度点検し、補強や取り替えを行う。

幹や主枝などに空洞が生じている樹や腐らん病の被害を受けた枝や樹は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

(13) 鳥害対策

野鳥による被害を防ぐため、以下の対策を行う。

ア ムクドリ（サクラドリ）、ヒヨドリ、カラスなどの被害が大きいところでは、防鳥網を使用する。防鳥網の網目は35mm以下とする。

イ 防鳥糸を張り巡らす場合は、鳥の種類に合わせた間隔（カラスの場合1 m以下）で張るようにするが、ヒヨドリは体が小さく、さらに飛行能力が高いため効果は低い。

ウ ディストレスコールを使用した音声機器や爆音機、かかしなどの防鳥器具は慣れが生じやすいので、ひとつの器具を長期間使用せず、様々な器具を組み合わせながら短期間で変えるようにする。

3 一般作業

- (1) 風害、鳥害対策 (2) 野ネズミ対策

4 今後の作業（11月2日～）

- (1) 晩生種の収穫 (2) 病害虫対策 (3) 風害、鳥害対策
(4) 野ネズミ対策 (5) 雪害対策 (6) 堆肥づくり、酸性土壌の改良
(7) 園地清掃

《 秋の農作業安全運動展開中！（9月～10月） 》

急がず、焦らず、安全な農作業を！
脚立作業は、安定した場所にしっかり固定し、天板上での作業は行わず、脚立から身を乗り出さないようにしましょう。
機械作業は、ほ場の出入り口などの段差や傾斜による転倒に注意するとともに、安全ベルト着用など、転落対策を徹底しましょう。

《 「あおり9」の生果実流通 》

現在、「あおり9」は「彩香」の商標名で販売されていますが、令和7年10月27日で商標の使用契約が満了となり、「彩香」を使用できなくなります。
令和7年10月27日以降は、「あおり9」で販売してください。

《 ツキノワグマ出没警報発令中！ 》

ツキノワグマ出没警報発令中です。農作業は、1人での作業を避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めましょう。

《 環境にやさしい農業に取り組んで、みどり認定を受けましょう 》

みどりの食料システム法に基づき、土づくりと化学肥料・化学農薬の使用低減などに取り組む農業者の認定制度【みどり認定】が始まっています。認定を受けると、設備投資の税制優遇や国庫補助事業の採択優遇などのメリットがあります。
申請・お問い合わせは、最寄りの地域県民局地域農林水産部にご相談ください。
https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noon/midori_kihontekinakeikaku.html

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

農林水産省「農薬登録情報提供システム」(<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 りんご属及びなし属植物の中国産花粉を使用しないで！ 》

中国において、火傷病の発生が確認されたため、中国産なし、りんごの花粉等の輸入が停止されました。

既に輸入された中国産花粉を介して火傷病がまん延することがないように、生産年にかかわらず、中国産花粉や来歴不明の花粉を入手・使用することがないようにお願いします。

《 青森県総合防除計画 》

総合防除とは、有害動植物の発生及び増加の抑制並びにこれが発生した場合における駆除及びまん延の防止を適時経済的に講ずることです。

青森県総合防除計画では、農業者が遵守すべき事項（「遵守事項」）の対象とし

て、りんご「モモシンクイガ」を設定しているので、適切な防除に努めましょう。

※県は、モモシンクイガの防除が適正に行われるように、指導及び助言、勧告、命令を行うことができ、命令に従わない農業者は30万円以下の過料に処されます。

○りんご「モモシンクイガ」の遵守事項（一部要約）

(1) 予防に関する措置

被害果は必ず処分するとともに、交信攪乱剤の設置や袋かけを行う

(2) 判断、防除に関する措置

被害果は見つけ次第摘み取り処分するほか、薬剤散布による定期防除を行う



詳しくはこちらをご覧ください。

・青森県総合防除計画 (<https://www.nounavi-aomori.jp/farmer/archives/8140>)

——— 《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを!! 》 ———

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

園地を見回るなど、りんごの盗難に注意しましょう！

次回の発行は令和6年11月1日（金）の予定です。